

伴奏講座

第9回、好評のうちに終わる

1泊2日

日にち：2月11日(土祝)～12日(日) 会場：川崎市民プラザ

♪第9回目となる今回の伴奏講座は、前回と同様に青山義久講師を迎えて池田講師との二人体制で1泊2日の講座を企画することができました。また、前回、練習時間が足りなかったとの反省を活かして、1日目から午前10時開始としてみました。

参加者は講師(2名)を含めて31名と、前回と同数となり大変盛況でした。参加者からは是非続けて欲しいとの意見が多く寄せられ、改めて歌の伴奏への関心の高さを感じた講座でした。好評でしたので、報告を兼ねてその一端を紹介します。

青山 義久 教室:(主に初心者コース)

人数が多かったこともありましたが、数人ずつ「あの青い空のように」と「岩手県釜石小学校(校歌)」と「私の子供達へ」の三曲のグループに分かれました。

そうして、講義の中で提示された「伴奏のヒント」や「ベースのパターン」の中からどれを採用するかグループの中で話し合いながらそれぞれグループの曲の伴奏譜を作っていました。伴奏譜が完成したら、一人ひとり自分が受け持つ部分を決め、合わせる練習へと進みました。

以下伴奏のヒントの一例



①

③

⑥

⑦

4拍子のリズムパターンの一例

① 一般的で易しい

⑤ 軽快な交互ベース

③ リズムを強調

⑩ ハバネラタンゴ

池田 健 教室:(主に実践コース)

1日目はレジメに沿っての講義が中心でした。以下レジメの一部を紹介

1. 「伴奏をするということについての心構え」①独奏との違い。②伴奏者は歌手もしくは歌う団体と対等な関係にある。など
2. 「リズム」①リズムは人の心を鼓舞するもの…早くても遅くても。②どのようなリズムで刻むのか…世の中には沢山のリズムがある。(シャンソン、ロシアンワルツ、マズルカ、等々でこんなに違う)
3. 「和音」それぞれの調に主三和音と副三和音がある。①和音の付け方…コードの構成音を覚えていないと難しい。「C」「F」「G」で実践。(「河は呼んでる」に主三和音と副三和音でつけてみる)
4. 「伴奏をつける」
①「メロディーを弾く」…歌い手の邪魔を

せずなお且つ歌い手の心を鼓舞するメロディー

- ②「リズムだけの伴奏」…その曲のリズムを意識すること。(実例:「遠い世界に」)
 - ③「アルペジオ、他」…リズム感の違い、拍子によっていろいろな形をつくる事が出来る。(実例:「ふるさと」他)
 - ④「合いの手」フレーズとフレーズとの合間に何をするか…新しいフレーズの感情を引き出す。(実例:「ともしび」他)
 5. 「伴奏を自分でつくってみる」メロディーにコードを付ける。(どんなコードを付けるかという所に独創性があらわれる。その曲にふさわしいリズム、または、違うリズムで新しい発見をすることもある。)
 6. 「出来た伴奏で皆で歌う」
- 以上のような講義で1日目を修了。

《二日目》

青山教室は、1日目の続きで、グループごとに伴奏譜の完成を目指し、午前中はパート練習と合わせの練習をしていました。池田教室は、昨日の講義をもとに「希望」「雪の降る町を」「遠くへ行きたい」から好きな曲を選び、伴奏譜づくりに挑戦しました。(青山教室:グループで練習の様子↓)



《午後はみんなの前で全員が発表》

青山教室はグループごとに、1回目は演奏のみで2回目は皆が歌を歌う中で伴奏しました。池田教室は、一人ずつ自作の伴奏譜を発表。同じ曲でも、人によってそれ

ぞれ違ったコードを使っているのが、講師からその違いの面白さをワンポイント講義付きでの発表となりました。



(池田教室の発表の様子↑)



(青山教室の発表の様子↑)

《参加者の感想など》…講座終了後一言
ずつ述べていただいた感想の中から…

始めて足掛け 4 年ぐらいになります。介護施設で認知症の方ばかり診ていて、何やっても喜んでいるっていう状態なので、何か曲を一つ二つマスターするために上手になりたいなあと思っています。

アコーディオンはまったく独学で始めたので、楽典と言うのかな、理論のことは全く解りません。一つつまずくごとに音大の方に聞いてみたりしていました。認知症の方に合う弾き方ができずに楽譜通り弾いているとポーっとしている。それじゃいけないと思って参加しました。和音と言うのがすごく大事だと言うのがわかりました。(I さん)

2 回目の参加です。もう是非来年も講座を開いていただきたいと思います。和音の素晴らしさって言うのは来るたびに感じます。伴奏の楽しさ、ほんとうにこれができたらなって…講師が考えているレベルには程遠くて右手だけでもついていけない状態ですけど楽しく勉強になりました。(A さん)

3 回目の参加です。最初に来たとき「学生時代」のいろいろなパターンを聞いて自分なりに伴奏譜を作ってみたけど失敗しました。それを繰り返しているうちに何とか 1 曲だけは人前で伴奏に使えるかなと思えるところまでになりました。歌が好きなので、気持ちよく歌える伴奏を目指したいと思います。(M さん)

初参加です。伴奏講座っていうものが何かっていうのが二日掛かってやっと解ってきた。伴奏は決して上手くはなっていません。最初に話のあった和音の重要性を認識

したり、とにかく歌は同じでも伴奏で歌が違うんだと、音楽が違うんだと、そういうことを学びました。(I さん)

2 回目です。一言で言うと、もう楽しかった。グループに分かれて、我々は「岩手県立釜石小学校」校歌です。この歌詞を見ると、今の釜石小学校の人達が置かれている境遇を本当に励ます校歌なんだと感動しました。

一番楽しかったのは大交流会。その後のうたごえ喫茶みたいなもの。あれも素晴らしい、この会の宝物だと思います。その後の二次会で酔っていたせいもあるんですけど講師から関東アコの実行委員会にこないかって誘われて二つ返事で行く事になりました。今後も参加したいと思います。(H さん)

ほとんど参加していますが、いつも砂上の楼閣みたいに、習ったことの積み重ねができなかったんですけど、今回は何かちょっと解った様な…今ごろ言って恥ずかしいけど、主和音、属和音、下属和音の意味が少し解ってきたのが良かった。また、昨年までに比べて練習時間が少し多かったのも良かった。

なかなかコードを付けるの、伴奏とかって言われても一人では出来ないけれど、皆でやると、みんなの知恵で曲が出来上がっていくんですね。それが良いですね。

伴奏はアンサンブルになるけれども、今度一人でやろうと思ったときにそれが利用できるの、あの初級コースのやり方って言うのはいい方法だと思いました。本番では、皆さんに歌ってもらった時の方が気楽に弾けました。(K さん)

(今回紹介できなかった分は次号に載せる予定です)